

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	日本経済事情(Japanese Economic Affairs)		授業コード	E030801
担当教員名	市川 芳郎		科目ナンバリングコード	E10414
配当学年	1	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	現実の経済の動向に対しての関心があるかどうかがこの科目の理解の程度に大きく影響してきます。日々の新聞、ニュースに関心を示してください。			
受講心得	講義を受ける基本的なルール(私語をつつしむ、他の学生の迷惑となる行為を行わないなど)を遵守して下さい。出席は毎回とります。毎回プリントを配布します。			
教科書	特定の教科書は使用しません。プリント・新聞資料を配布 します。			
参考文献及び指定図書	宮崎勇他著『日本経済図説 第4版』岩波新書 2013年 講義の中で適宜(てきぎ)参考文献を紹介します。			
関連科目	特にはありません。			

授業の目的	毎日のTV・新聞では、日本経済に関する諸問題の具体的な状況が取り上げられ論じられています。個別の動きを大きな経済社会の変化の潮流の中に位置づけ、より深く理解するには、最低限の経済常識が不可欠です。本講では、新1年生に対して日本経済の仕組み、現状とさまざまな課題を解説し、自分たちが生活している日本経済の現状と将来に対して関心を持ってもらうことで、自分自身の問題として日本経済の諸問題を考えるための基礎知識を身につけてもらうことを目的としています。2年次からの経済の専門科目への案内役も目指しています。
授業の概要	前半部では日本経済が現在のすがたとなるまでのあゆみと日本経済のきほんのしくみを説明します。後半部では地域別に見る日本経済、特に九州経済の現状と課題を説明します。また、日本経済全体の課題を説明します。

### ○授業計画

学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：第1回 開講にあたって</b> 授業計画に記載している諸注意事項の説明、特に授業の目的、受講心得、評価方法について詳細に説明します。この科目は新1年生にとって高校と大学の授業の橋渡しの性格を持った科目ですので、特に授業の組み立て、評価方法について丁寧に説明します。	
<b>第2週：第2回 「日本の近代化・工業化はどのようにして可能だったのか」</b> 日本の近代がどのようにして生まれたのか、日本が近代工業社会を築き上げる過程を説明します。しかし、第2次大戦での敗北という結果となりました。明治維新から第2次世界大戦敗北までをみてみます。	配布プリント
<b>第3週：第3回 「日本の高度経済成長はどのようにして実現したのか」</b> 第2次大戦後の三大経済改革、高度経済成長、第1次・2次オイルショック、「プラザ合意」までの経済の流れをみてみます。日本は敗戦から立ち直り、ジャパン・アズ・ナンバーワンとよばれる最適工業社会を実現させました。1985年は「プラザ合意」により名実ともに日本経済の強さが世界に認められた記念すべき年です	配布プリント
<b>第4週：第4回 「なぜ日本は「デフレ経済」におちいってしまったのか」</b> 1985年の「プラザ合意」はその後「バブル経済」をもたらし、混迷の1990年代からの「失われた20年」につづく年でもありました。バブル経済の生成、崩壊その影響をみてみます。さらに2000年代に入ってから「デフレ経済」、「経済的格差の拡大」、「中国経済の発展とその影響」についても説明します。	配布プリント
<b>第5週：第5回 「日本経済の基本のしくみ 景気のしくみ・物価のしくみ」</b> 経済の活発さを表す景気は3つの要因で変動します。物価の安定は経済の安定につながります。景気と物価のしくみを説明します。	配布プリント
<b>第6週：第6回 「日本経済を理解するための為替のしくみ」</b> 一般的に円高は輸入に有利、円安は輸出に有利といわれます。為替のしくみを説明します。	配布プリント
<b>第7週：第7回 「日本経済を理解するための金融のしくみ」</b> 金融は金利をとまうお金の貸し借りのことです。金融のしくみを説明します。	配布プリント
<b>第8週：第8回 「日本経済を理解するための財政のしくみ」</b>	配布プリント

歳入・歳出から見た国や地方公共団体の活動を説明します。		
<b>第9週：第9回 前半部のまとめと中間テスト</b> 第2回から8回までの学習内容のまとめをして、論述形式の中間テストを行います。自筆ノート、配布プリント・資料は持ち込み可能です。電子式辞書は不可です。終了後解説をします。		配布プリント 自筆ノート
<b>第10週：第10回「わが国の地域と経済」</b> この回から現在日本の経済事情を「地域と経済」の側面から考えます。というのは、日本経済はさまざまな構成要素から成っていますが、その一つの重要な側面が地域経済の視点にあるからです。まず、日本経済の地域的な姿を人口配置や工業集積などの側面から考えます。		配布プリント
<b>第11週：第11回「九州経済の枠組みとその特徴」</b> 九州は一割経済と呼ばれますが、所得や生産に関する指標では過大評価となります。その原因は、九州の歴史的風土に根ざした産業構成の遅れにあります。人口、所得、工業生産、産業構成等の基本指標から、地図情報とともに九州の特徴を考えます。		配布プリント
<b>第12週：第12回「九州経済の課題」</b> 最近の九州経済のトピックスを取り上げながら、今後の展望について考えます。具体的には、グリーンツーリズム、少子・高齢化と新しい過疎(「人口自然減社会」)、アジア新興国への企業進出などです。		配布プリント
<b>第13週：第13回「現代の日本経済がかかえている諸課題1」</b> これからの私たちの生活は特に海外とのかかわりが大切です。中国、韓国、ASEAN諸国との経済的関係をどのように考えたらよいのか。環太平洋経済連携協定(TPP)など説明します。		配布プリント
<b>第14週：第14回「現代の日本経済がかかえている諸課題2」</b> 2014年の現時点で日本経済がかかえている諸課題について考えます。2008年9月のリーマン・ブラザーズの破綻以降、世界金融危機、つづいて世界同時不況が発生しました。発生のメカニズムと日本経済に及ぼした影響について説明します。		配布プリント
<b>第15週：第15回「現代の日本経済がかかえている諸課題3」</b> 「失われた20年」、「デフレ経済」で日本経済の低迷が続いています。2012年12月からの自民党の安倍政権はこの経済状況を改善しようとしています。「アベノミクス」が私たちの生活に及ぼす影響を考えてみます。		配布プリント
<b>第16週：期末試験</b> 論述形式の試験を実施します。自筆ノート、配布プリント・資料のみ持ち込み可能です。電子式辞書の持ち込みは不可です。		配布プリント 自筆ノート、学生証
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	1.新聞、TVなどのニュースをとおして、何が現在の日本経済の問題なのか、に関心を示した。
<b>【知識・理解】</b>	2. 現在の日本経済の基本的なしくみが理解できている。 3. 大分県を含む九州経済の現状を理解している。 4. 現在の日本経済が直面している課題を理解している。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	
<b>【思考・判断・創造】</b>	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	60点	30点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。				
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	授業確認テストをします。意欲的に集中して授業を聴いていたかを確認する問題を出します。
発表・その他 (無形成果)	授業の中で質問する場合があります。適切な解答をした人には、記録して加点します。